

# (財)浦上食品・食文化振興財団



## NEWS 2007

### 理事長挨拶

今年は梅雨明けが遅いうえに、記録的な暑さになり不順な天候でしたが、世の中も信じられない殺人事件や偽造事件に人の心もすっかりおかしくなってしまったのではと心配する今日この頃です。

特に、食品業界に携わるものにとって心を痛めるのは北海道のミートホープにはじまる偽造、名門赤福、船場吉兆までしている賞味期限のごまかし等一挙に出てきたことです。

食品は口に入るものなので何よりも信用第一で“おかげさまで”という心がハウス食品(株)では創業からの社訓になっています。そういう創業者の志を継ぎ、浦上食品・食文化振興財団を設立いたしました。

財団活動の中で最も力を注いでいる研究助成事業につきましては、初年度1986年度は申請件数20件の中から4件に助成をさせていただきました。22年目になります本年度は193件もの応募をいただき、うれしい悲鳴を上げました。今年は特に猛暑の8月で選考委員の先生方には一か月間試練の選考になりました。本当に頭の下がる思いで一杯です。厳しく、公正な選考の結果、16件の研究に助成することが決定しました。

助成金授与式には北は北海道大学、南は宮崎大学と全国各地から先生方が一堂に会し、自分の研究について説明したり、お互いに質疑応答したり、私にとっても有意義なひとときを持つことができました。

浦上財団のやっている仕事が少しずつ食の研究に携わる先生方に広まり、役立っていることは大きな喜びです。

これも財団の活動にご賛同いただき、ご寄付くださる多くの方々のご協力の賜物と心より感謝しています。

今後ともどうぞよろしくご指導いただきますようお願い申し上げます。



財団法人 浦上食品・食文化振興財団  
理事長 浦上節子



## おもな活動紹介

### ● 研究助成事業

財団設立以来、食品に関する研究を行っている大学等に対して研究助成事業を行っております。今年度は193件の応募を受付け、選考委員会で16名の研究者への助成を決定しました(助成先は下別表のとおり)。

贈呈式は10月4日に研究代表者の方々、当財団理事長、選考委員等が出席して行われました。終始和やかな雰囲気の中で行われ、意見交換の場になったりと、とても有意義なひと時となりました。おかげさまで、当財団設立からの助成件数は205件、助成金総額は5億4千7百万円余となりました。



研究内容を簡潔に説明する研究代表者

贈呈書を研究代表者に手渡す理事長(贈呈式にて)

### 【平成19年度 研究助成】

研究テーマ	研究機関・研究代表者	金額
<b>食品加工技術に関する研究</b>		
種実由来のプロテアーゼを用いた高齢者向け多機能食品の開発	東京大学大学院 農学生命科学研究科 准教授 朝倉富子	300万円
ニンニクの健康増進作用を増強させるための加工・保存技術の開発	大阪府立大学大学院 生命環境科学部 助教 赤川 貢	267万円
<b>食品と健康に関する研究</b>		
食品に含まれる香気成分とその受容体の消化管における機能発現に関する分子および器官生理学的研究	静岡県立大学 環境科学研究所 教授 桑原厚和	290万円
記憶障害に予防効果を持つ食品成分の有用性の解明	宮崎大学 医学部 助教 小宇田智子	200万円
魚の摂取と脳保護効果の分子基盤 —DHAグリア細胞に対する作用—	山梨大学大学院 医学工学総合研究部 教授 小泉修一	299万円
機能性食品の開発に貢献する新しい吸収改善理論の確立と新規配合剤の開発	北海道大学大学院 薬学研究院 助教 板垣史郎	250万円
揮発性香辛料成分の人の精神機能に及ぼす影響	九州大学 農学研究院 助教 清水邦義	300万円
中枢からみた嚥下機能および食形態の検討	九州大学 医学研究院 助教 安達一雄	192万円
食品用乳化剤の新たな利用法:MPRI増感剤内包ナノカプセルの合成	千葉大学大学院 工学研究科 助教授 豊田太郎	290万円
<b>香辛料食品に関する研究</b>		
放線菌由来新規アシラーゼを用いたカプサイシン誘導体の量産化と抗酸化性・抗菌性の検証	岡山大学大学院 自然科学研究科 教授 中西一弘	290万円
染色体工学手法による、有用な形質を持った香辛野菜シャロットの品種育成	山口大学 農学部 准教授 執行正義	250万円
リポソーム製剤化した香辛料成分によるアンチエイジング効果の検討	京都薬科大学 薬学部 教授 小暮健太郎	300万円
<b>食嗜好に関する研究</b>		
食の機能化に対する消費者の価値意識に関する実証的研究	(財)未来工学研究所 21世紀社会システム研究センター 主任研究員 上野伸子	300万円
プロダクトデザインによる行為分析からの吸入型機能食品の開発提案研究	大阪大学コミュニケーションデザイン・センター 准教授 尾方義人	100万円
<b>食品の安全性に関する研究</b>		
オゾンマイクロナノバブルを用いた青果物の残留農薬除去技術の開発	徳島大学大学院 ソシオテクノサイエンス研究部 教授 中村嘉利	300万円
香辛料食品と医薬品との相互作用に関する基礎研究	岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 准教授 伊東秀之	300万円



## ● カレー再発見フォーラムへの協賛

カレーの文化や伝承などを科学的な分野で捉え直し、現代に適合したカレーの価値を再発見することを目的に活動しています。カレーと健康の関係やカレーのおいしさの解明など毎回テーマを決め、年に数回、イベント等を開催しています。

今年6月広島では食育の大切さとカレーは栄養バランスのとれた理想的な献立である話が講演とパネルディスカッションでなされました。

7月の東京ではカレーの主成分ターメリック(ウコン)に含まれるクルクミンが認知症などの予防にも治療にも効果があるという科学的な話が講演でまず行われ、その後インド料理研究家による献立の試食会とガラムマサラの調合実演が行われました。



8月の仙台ではインド料理研究家により、健康を守るインドのお母さんの知恵にあふれたスパイスの使い方について、暑い夏には体を冷やすスパイスを、また寒い冬には体を温めるスパイスを使うなどカレーからお味噌汁での様々な実例を交えて講演がありました。その後、レシピ監修されたカレーなどの試食会場では参加者と直接語り合ったり質問に答えたりしていただきました。



## ● 研究報告書Vol.15の発行

今までに助成した研究のうち、昨年秋から今年の夏までに研究が終了し当財団に提出された研究報告を収めた研究報告書を12月に発行します。広く研究者や食品産業界の方々などに役立てていただけるように、大学図書館や都道府県立図書館に寄贈いたします。



## ● 読売写真ニュースを小学校に寄贈

食文化の大切さを理解してもらうため『「食」は「人」に「良」いこと、元気のもと』の標語を用い、小学校へ教材資料として、写真ニュースを提供しています。



### ＜寄贈した小学校からのお礼の手紙―抜粋―＞

- 本校では正面玄関に掲示させていただいております。生徒も保護者も地域の方もご覧になり、色々な情報がダイレクトに入り、喜んでおります。
- 掲示委員会の活動の一環として毎週、送付いただく写真ニュースを掲示していますが、高学年の子どもたちが興味深く見ています。
- 日々目まぐるしく変化する社会の様子をご寄贈いただいた写真ニュースで見ることができ、子どもたちは大変喜んでおります。
- 思いもよらぬプレゼントに児童とともに喜んでおります。特に上級生はニュースにも興味を持ってくる年頃ですので、新しいニュース写真が掲示されるたびに、何人も周りを取り囲んで読んでいます。
- こどもたちにとって世界各地の状況に触れることのできる掲示物として活用させていただきます。

## 当財団への寄付金はあなたの税金が優遇されます

浦上財団は、教育または科学の振興、文化の向上、社会福祉への貢献その他公益の増進に著しく寄与する財団法人に該当するものとして特定公益増進法人に認められています。

特定公益増進法人に対する寄付金については、寄付者の所得控除が認められます。

### \* 個人で寄付していただいた方は

- 寄付金控除の対象となる金額は、その年中(1月1日～12月31日)に寄付した全ての特定公益増進法人に対する寄付金の合計額から5千円を引いた金額となります。
- 一例えば、当財団に1万円、他の特定公益増進法人A,B,Cそれぞれに1万づつ円寄付した場合、10000円×4＝50000円で35000円が寄付金控除の対象金額になります。(控除対象金額には上限があります。)
- また、この寄付金控除は年末調整では認められません。確定申告時に当財団がお送りする証明書類を添付して申請してください。

### \* 法人名でご寄付していただいた方は

- 法人の通常の寄付金枠と同額が別途認められます。

### ＜ご寄付のお願い＞

当財団の事業をさらに発展させられますよう浄財のご寄付を賜りたくお願い致します。

ご寄付の申込みは同封の郵便振替払込用紙をご使用下さい。(払込手数料は当財団負担になります。)

## お問い合わせは下記まで

(財)浦上食品・食文化振興財団

住 所: 〒102-8560 東京都千代田区紀尾井町6番3号 ハウス食品東京本社ビル

電 話: 03-3264-5995 FAX: 03-3264-6188

E-Mail: main@urakamizaidan.or.jp

URL: http://www.urakamizaidan.or.jp